6-11生産関係が社会的構造全体の隠れた基礎であり、様々な経験的事情によって無限の色合いを示す

「不払剰余労働が直接生産者から汲み出される独自な経済的形態は、支配・隷属関係を規定するが、この関係は直接に生産そのものから生まれてきて、それ自身また規定的に生産に反作用する。しかしまた、この関係の上には、生産関係そのものから生じてくる経済的共同体の全姿態が築かれ、また同時にその独自な政治的姿態も築かれる。生産条件の所有者の直接生産者にたいする直接的関係――この関係のそのつどの形態は当然つねに労働の仕方の、したがってまた労働の社会的生産力の、一定の発展段階に対応している――、この関係こそは、つねに、われわれがそのうちに社会的構造全体の、したがってまた主権・従属関係の政治的形態の、要するにそのつどの独自な国家形態の、最奥の秘密、隠れた基礎を見いだすところのものである。このことは、同じ経済的基礎――主要条件から見て同じ基礎――が、無数のさまざまな経験的事情、すなわち自然条件や種族関係や外から作用する歴史的影響などによって、現象上の無限の変異や色合いを示すことがありうるということを妨げるものではなく、こけらの変異や色合いはただこの経験的に与えられた事情の分析によってのみ理解されるのである。」（大月版『**資本論**』⑤ P1014B3-1015F7）